

## 日本熱物性学会 2008 年第 3 回役員会報告 (HP 版)

日時：平成 20 年 9 月 13 日 (土) 13:00~17:00

会場：慶應義塾大学三田キャンパス 北館会議室 2

### 主な議題：

#### 1. 会長挨拶

大西会長より開会の挨拶があり、本日は審議する内容が多いので宜しく御協力いただきたいと述べられた。

#### 2. 前回議事録確認

長坂事務局担当より前回議事録について説明が行われた。

#### 3. 第 29 回日本熱物性シンポジウムについて

渋川実行委員長より第 29 回日本熱物性シンポジウムについて説明があった。現在までに特別講演を含めて 144 件の講演申込みがあり、原稿も全て揃っているとのこと。申し込み状況は 184 名の事前参加申込みがあった。企業展示については既に 5 社ほどから申し込みをいただいている。OS が増えたために講演数が増大した面もあるため、今後是非 OS を継続して欲しいという意見があった。

#### 4. 総会に関する事項について

##### 平成 20 年名誉員顕彰者ならびに学会賞候補者について

藤井表彰委員長より平成 20 年名誉員顕彰者および学会賞候補者について説明があった。論文賞・奨励賞については、審査委員会（表彰委員長、委員 4 名、幹事 1 名で構成）で厳正な審査を行った結果、論文賞は江田拓朗先生、小澤俊平先生、安達正芳先生、白鳥英先生、尺長憲昭先生、日比谷孟俊先生、渡邊匡人先生の論文を候補とし、奨励賞については、富田大輔先生、長野方星先生の両氏を候補とする旨の報告があった。貢献賞については、本年度は候補者がいなかったが、引き続き若い方で貢献の大きい方の推薦をいただきたい旨のお願いがあった。

##### 第 30 期役員候補者について

長坂事務局担当より第 30 期役員候補者について説明があった。会長、副会長については、候補者が数名推薦されたが、会長を諸岡晴美先生、副会長を三浦隆利先生、長坂雄次先生（事務局兼任）の候補が提案され、問題なく了承された。

## 総会資料と進め方

長坂事務局担当より総会議案書ならびに総会の進め方について説明があった。第 5 号議案 第 30 期役員案については、会長に諸岡晴美先生、副会長〈無任所〉に三浦隆利先生を追記する旨の説明があった。研究分科会の活動について活動委員会がきちんと統括してはどうかという意見があった。

## 5. 第 30 回日本熱物性シンポジウム準備状況

高橋実行委員長より第 30 回日本熱物性シンポジウム準備状況について説明があった。8 月 19 日に準備委員会を発足したとのこと。会場（伝国の杜）ならびに懇親会の会場（上杉城史苑）の予約を取り付けたとの報告があった。実行委員会は東北地区の多くの先生方に協力いただいた。また、顧問として山田悦郎先生に御参加いただいている。シンポジウムは学会の主要な活動であるので、会長（大西晃先生）・副会長（馬場哲也先生、長坂雄次先生）にも実行委員会に入らせていただきたい旨の提案があった。また、会長名で実行委員に委嘱状を出したいとの提案がなされ、問題なく了承された。各種委員会や新旧役員会については、会場から徒歩 3 分程度の上杉城史苑にて行う予定である。

## 6. 各種委員会報告

### 編集委員会

吉田編集委員長より論文の投稿を勧めていただきたいとのお願いがあった。第 29 回日本熱物性シンポジウムの講演の中で投稿論文に相応しいものを座長の方に推薦をいただきたい旨の説明があった。また、論文誌のアーカイブ化についてどのように編集委員会として取り組んで行くか検討を始めたとの説明があった。論文・特集号などのカラー化について予算を検討しながら順次対応していきたいという意見が出た。

### 熱物性サービス委員会

馬場熱物性サービス委員長よりデータベースの説明があった。データベースサーバを長崎大学に導入し、熱物性データベースを 2007 年 11 月より公開し始めたが、2008 年 6 月よりサーバの稼動を中断しているとのこと。再稼動させるのが一番の課題であり、産総研のサーバをバックアップに公開して行きたいとの説明があった。サーバが復旧次第、コンテンツごとに権限を分け、学会員に特化したコンテンツの提供を開始したい旨の説明があった。熱物性データベースの紹介記事を 11 月号に掲載し、メーリングリストにも流すようにして、学会員にデータベースを周知徹底したいとのこと。

### 活動委員会

佐藤春樹活動委員長よりベストプレゼンテーション賞審査方法について説明があった。

毎年同じ大学の研究室に偏っているという指摘があったため、評価項目の再検討を行っているとのこと。「発表者の研究成果への寄与が明確」と「発表者の新たなチャレンジを感じる」という審査項目を追加した旨の説明があった。研究内容や質は質疑応答にも繋がるものであり、質疑応答のウェイトを増やす必要があるのではないか、という意見が出た。きちんと論文が書けていて、発表の準備も出来ていて、質疑もできれば同じところがとても構わないのではないかという意見もあった。

引き続き 30 周年記念行事の提案について説明があった。30 周年記念行事実行委員会を組織しなければならない旨の説明があった。行事案としては例として学会誌に特集号を組むことや、座談会などを開催するというものがあるが、検討中であるとのこと。第 30 回日本熱物性シンポジウムでは会場の都合上、30 周年記念行事に関する講演等催しを行うことは難しいため、予算を検討しながらどのような行事を行うか検討することになった。

活動委員会が研究分科会を統括する役割を担う方が良いという意見が出され、問題なく了承された。

## 広報委員会

山田広報委員長より今期で広報委員長を退任し次期広報委員長は宮崎康次先生である旨の報告があった。現状の学会ホームページが全てのブラウザに対応していない面もあり、任期中に改善していきたいとの意欲的な発言があった。

## 研究分科会

### **マイクロ・ナノスケールの熱物性とシステムデザイン**

宮崎オーガナイザーより研究分科会の活動報告がされた。本年度は 2 ヶ月に 1 回のペースで研究分科会を開催したとのこと。OS 開催や情報交換など非常に活発に行っており、来年度も是非継続したい旨お願いがあった。これまでの成果をハンドブック等にまとめていきたい旨の説明があった。

### **建物外皮の熱物性とシステムデザイン**

吉田オーガナイザーより研究分科会の活動報告がされた。4 つの WG を作成し、これまでの成果として報告書という形で出していきたいとのこと。システムデザインへどのように繋げるかが課題として残っているとの意見があった。

### **生活環境懇話会**

吉田オーガナイザーより研究分科会の活動報告がされた。9 月 27 日に懇話会を予定しており、3 名の方に人体の快適性等についてお話いただく予定であるとのこと。今後どのように続けていくか検討していくとの説明があった。建物外皮の熱物性とシステムデザインとトピックが重なる面もあり、両方に参加していただいている方も多とのこと。

### **低温環境における熱物性の基礎と応用**

大久保オーガナイザーより研究分科会の活動報告がされた。第 1 回研究会は日本女子大

で開催し、第 2 回研究会は信州大学で開催した。本年度はあと 3 回ほど研究会を開催する予定であるとのこと。企業から若手をどんどん参加させたいという意見もいただいており、積極的に取り組みたいとのこと。

#### 宇宙材料の熱物性とシステムデザイン

大西オーガナイザーより研究分科会の活動報告がされた。企業と大学の連携が深まるような講演をしていただいている。年間スケジュールについては既に計画されており、これまで開催された研究会は大変好評であったとのこと。ハンドブックについては著者等を以前から決めており、今後研究会で煮詰めていきたいとのこと。

研究会継続については了承されたが、今後目に見える成果として OS の開催やハンドブックの出版、海外からの研究者を招聘する際の母体となる等にも取り組んで欲しいとの意見があった。年間予定をホームページに掲載することも条件となる。また、年度の活動に見合った経費を計上する方向で検討したいとの意見があった。

#### 7. 新公益法人制度への対応について

大西会長より新公益法人制度への対応についての説明があった。5 年ほどで法人のシステムが変わり、法人化していない本会も対応していく必要があり、公益性の問題や、税金の問題もあるとのこと。専門家も交えて今後対策を検討する必要がある。

#### 8. 共催・協賛関係

長坂事務局担当より協賛の報告があり、本学会として協賛を承諾した旨の報告があった。

#### 9. 会員異動

長坂事務局担当より会員異動の報告があった。

#### 10. その他

##### 第 32 回日本熱物性シンポジウムにおけるジョイントセッションについて

大西会長より、第 32 回日本熱物性シンポジウムにおける日本熱測定学会とのジョイントについて説明があった。2011 年に関東地区で開催予定の第 32 回日本熱物性シンポジウムを日本熱測定学会と joint meeting にする場合、どのような形でジョイントするかという点を今後検討していかなければならない。特に両方の学会に所属している学会員が非常に少なくなり、シンポジウム参加費、論文集の構成や会場の問題もある中、joint meeting にどのような意義を見出すかについて両学会の会長同士でまず話し合い、どのようなメリットがお互いにあるのかを検討していくことに決定した。

##### 熱物性ハンドブックについて

長坂事務局担当より熱物性ハンドブックに関する養賢堂との契約について説明があり、日本熱物性学会を「甲」として契約を締結することが了承された。

#### **JACM 日本計算力学連合の運営委員について**

長坂事務局担当より JACM 日本計算力学連合の運営委員推薦について説明があり、泰岡先生を熱物性学会から運営委員としてお願いする旨の提案がされ、問題なく了承された。

以上